

## 吉備高原都市について

**吉備高原都市とは**

昭和48年に当時の岡山県知事・長野士郎氏が岡山県総合福祉計画の中で打ち出した構想で、岡山県のほぼ中央部に位置する吉備高原の一部に、自然環境、風俗、伝統、文化を生かしながら、保健、福祉、文化、教育などの機能を備えた吉備高原都市を建設した。当初は3万人の人口を想定した壮大な計画で、国立吉備青少年自然の家や障害者を雇用する福祉施設、専門的リハビリテーション医療と地域医療を担う吉備高原医療リハビリテーションセンター、吉備高原小学校、岡山県総合教育センターなどができた。しかしながら、県の事業計画の見直しにより後期計画は中断し現在に至っている。現在の人口は約1,600人である。



きびプラザ・コリドール



さんさん広場（きびプラザ内）



吉備高原医療リハビリテーションセンター



住区内道路

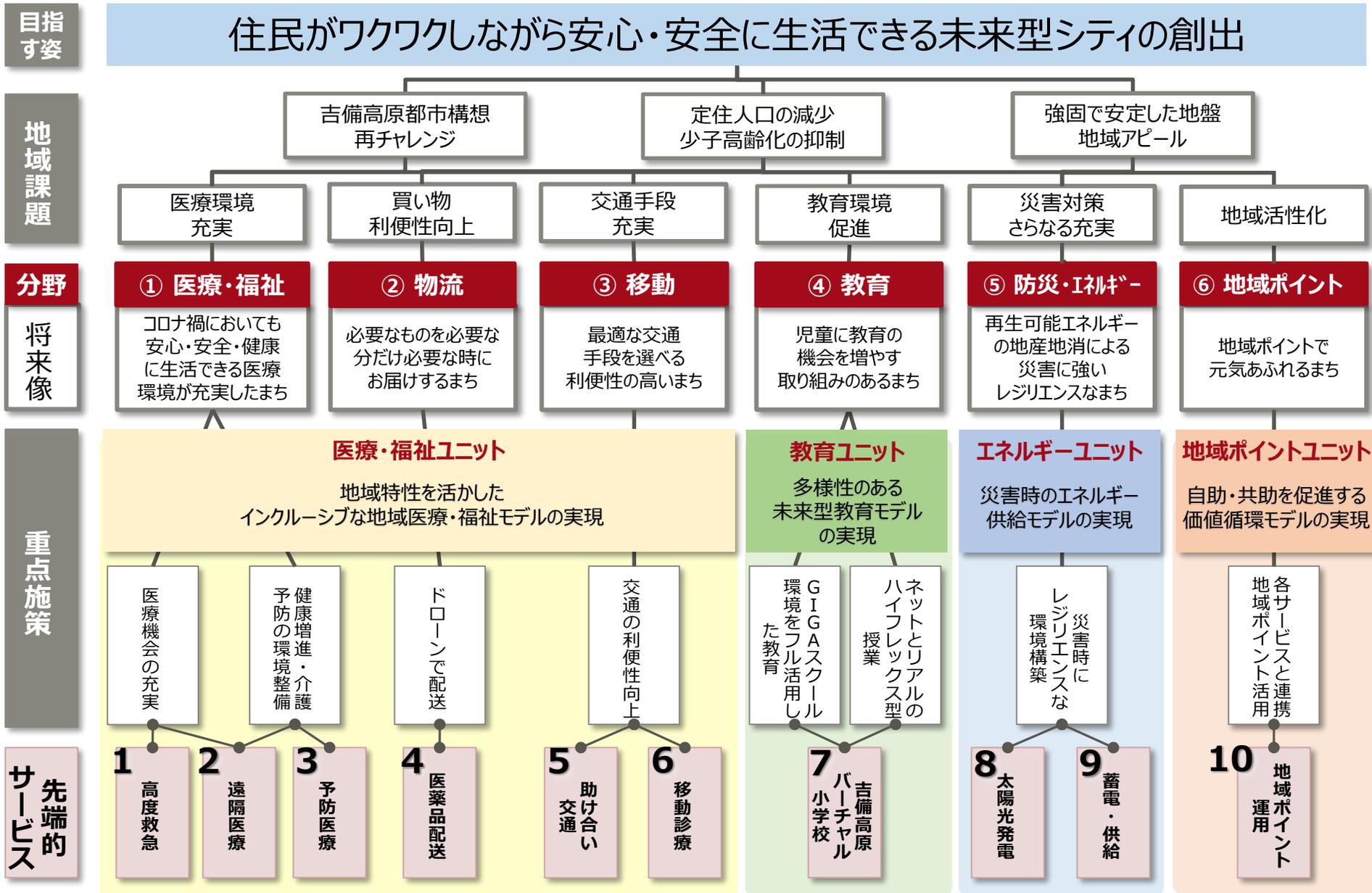
**地域概観**

- 世帯 883世帯 (R3.1.1)
- 人口 1,590人 (R3.1.1)
- 面積 1,912ha
- 標高 350~400m
- 気候 高原冷涼
- 地質 強固で安定した地盤

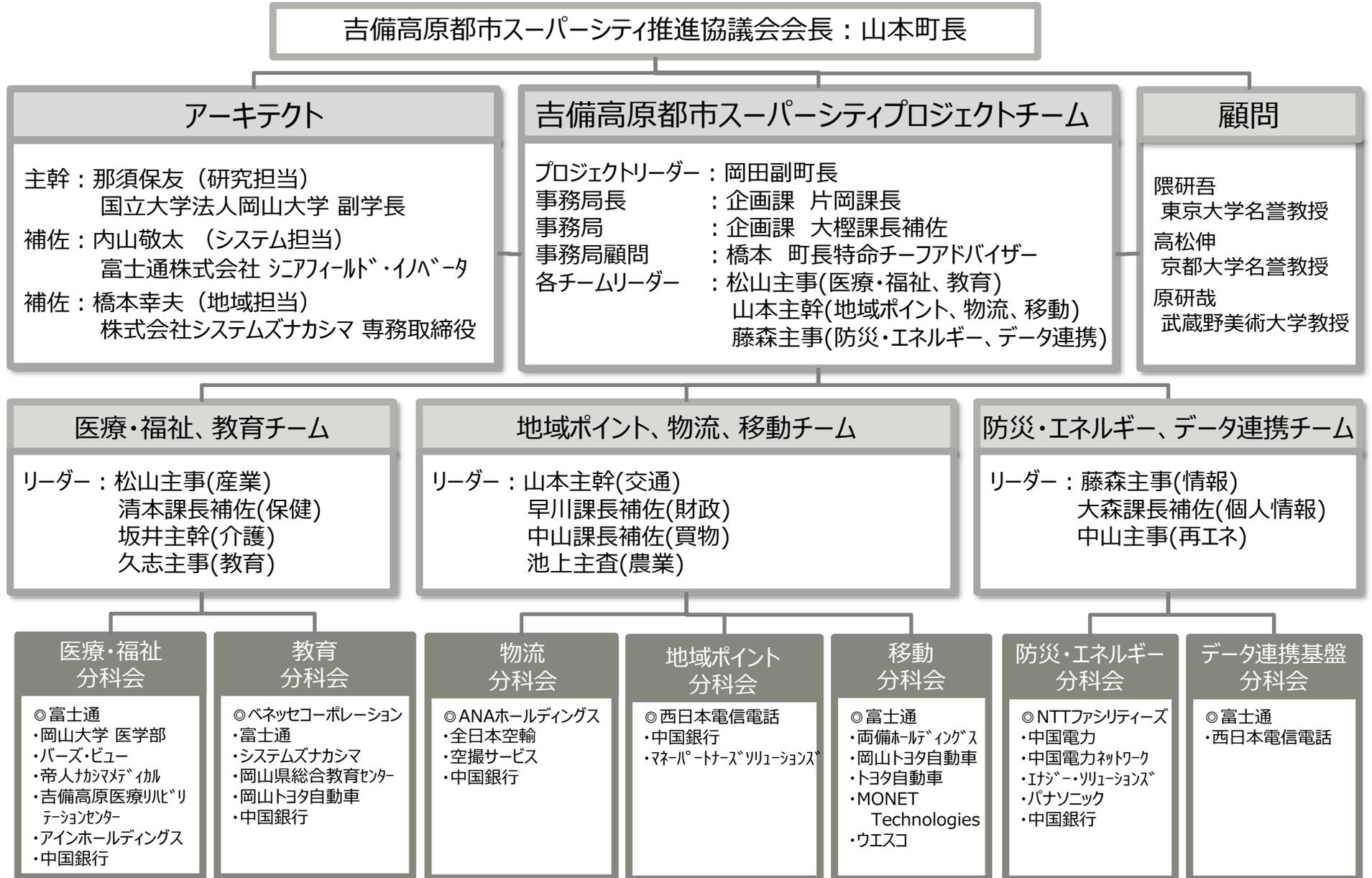
**【課題】**

- 未利用地および住区に分譲促進
- 移住、定住人口増加による拠点整備

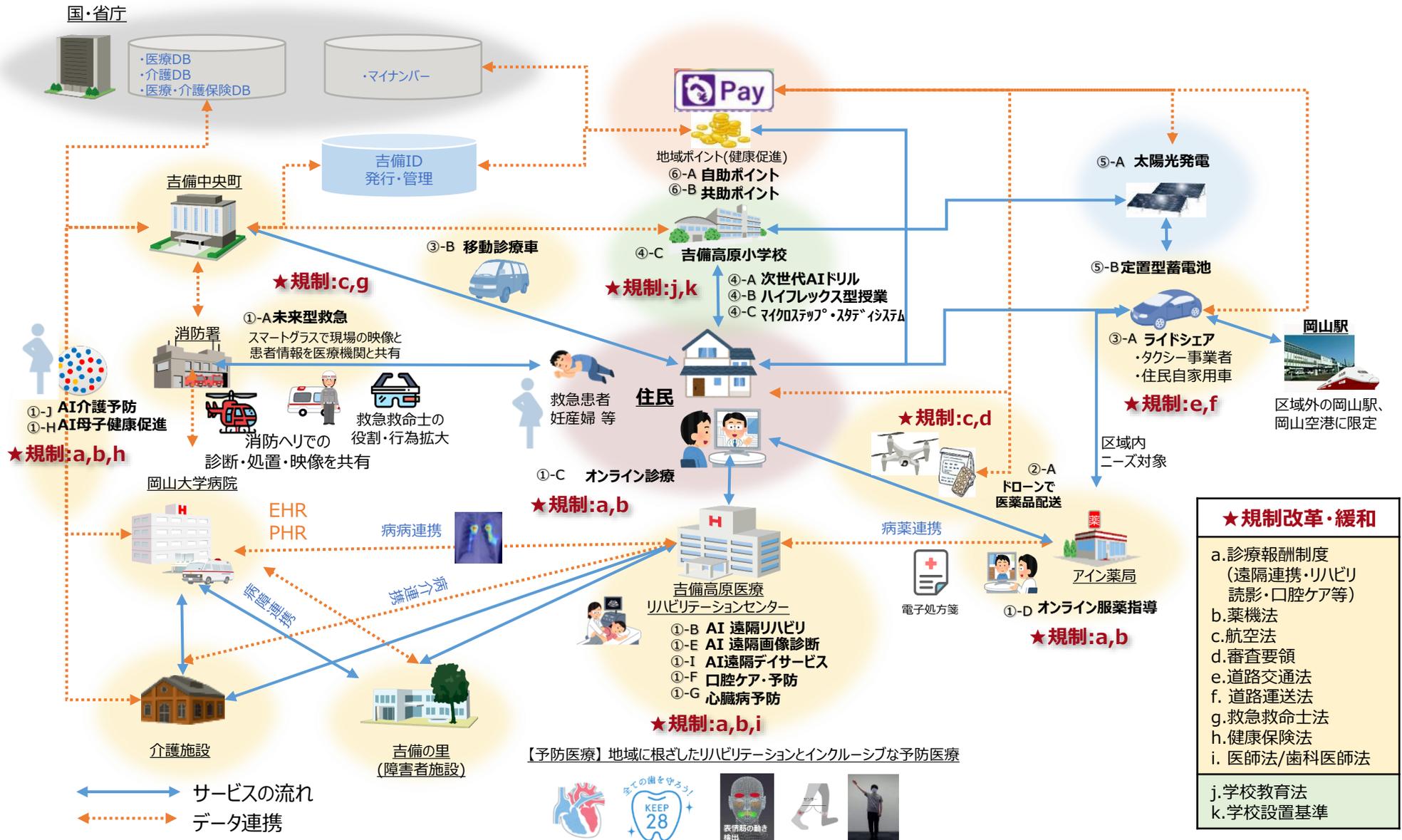
吉備高原都市 地域課題とスーパシティ構想の体系







先端的サービスの概要 サービス全体と規制改革マップ

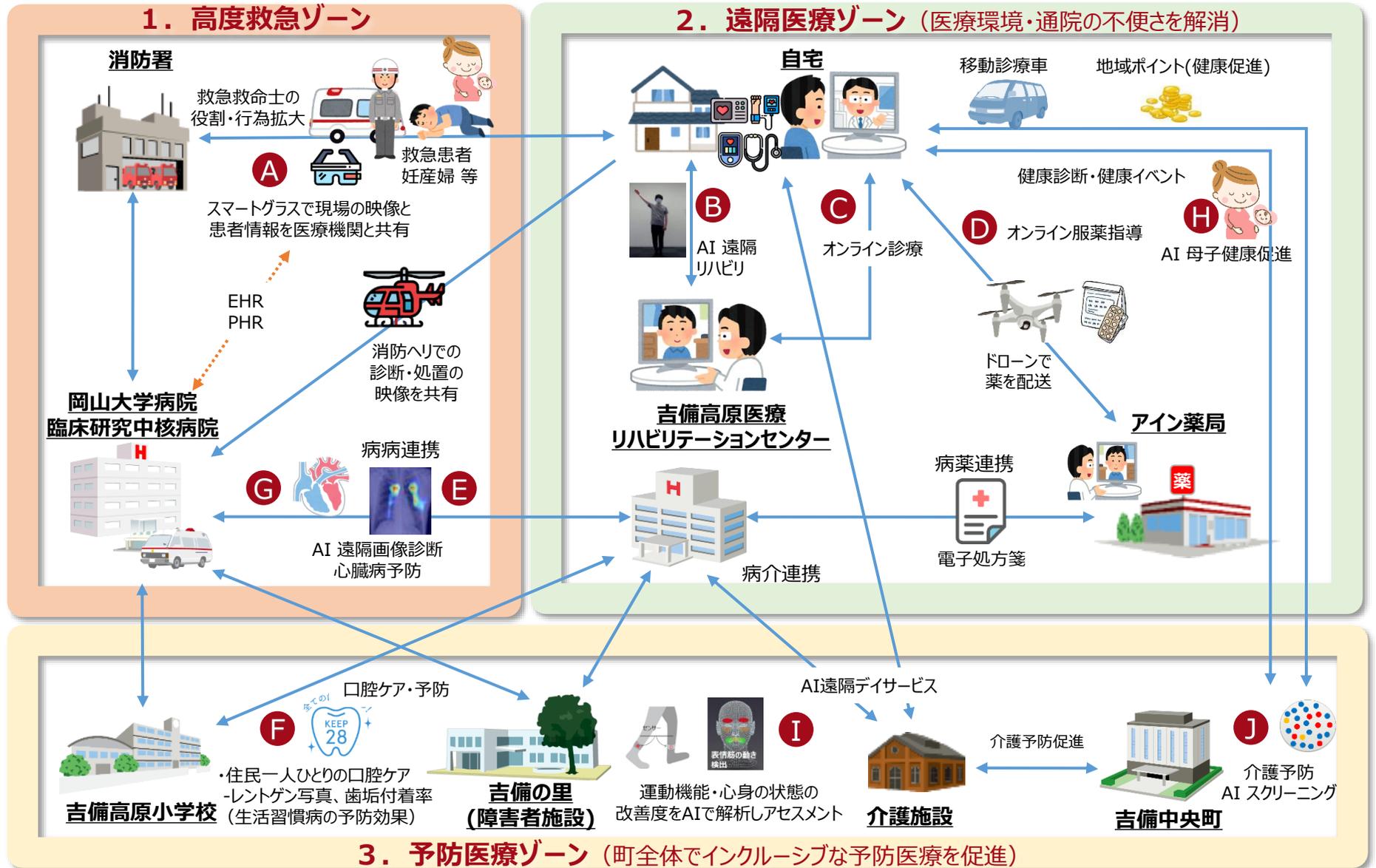


先端的サービスの概要 医療・福祉

地域特性を活かしたインクルーシブな地域医療・福祉モデルを実現

データ連携基盤

※ 地域医療連携ネットワーク(晴れやかネット)が整備されている



多様性に対応し、のびのびと教育が受けられる未来型教育モデルの実現

全児童がどこからでもいつでも受講できる「吉備高原バーチャル小学校」

バーチャルでの学び

- ✓ どこからでも授業がライブで受講できる。(不登校児童にも学びの機会を提供)
- ✓ アーカイブされているので後から復習ができる。
- ✓ ICT支援員を常駐させているため教員は授業に集中できる。
- ✓ 地域住民や保護者もICT活用支援ボランティアとして協力(地域ポイント連携)



校内・自宅



- ✓ 他市・他県の小学校との交流
- ✓ 地域との連携

オンライン学習

個別最適化  
学習

協働学習

- 専用端末を使用した自宅での個別最適化学習(マイクロステップ・スタディ)
- 次世代AIドリルによる個別最適化学習

ハイフレックス型授業

一斉リアル授業/動画配信  
協働学習(町内・外)

- 町内外での協働・交流学习の定例化
- 町内外の他小学校とのオンライン交流
- 地域探究的学習(地域人材授業)



リアルでの学び

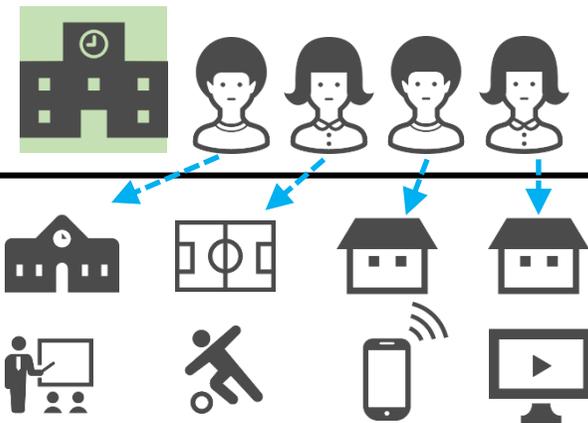
- ✓ あくまでもリアルな授業がベースであり、通常の授業や行事などスクーリングで実施
- ✓ 集団の中でこそ得られるコミュニケーション力、協働、チームワークなど資質能力を育成

児童の個性を伸ばすマイクロ  
ステップ・スタディの導入

- ✓ 高精度教育ビッグデータを活用した個別最適化学習システムを導入
- ✓ スマホ型の専用端末を全児童に配布し自宅での学習も可能にする。

「吉備高原バーチャル小学校」

全児童が在籍



あくまでも従来のリアルな  
授業がベース

自宅でオンライン学習と  
ハイフレックス型授業に加えて  
マイクロステップ・スタディも活用

# 地域ポイントで自助・共助を促進する価値循環モデルの実現

